

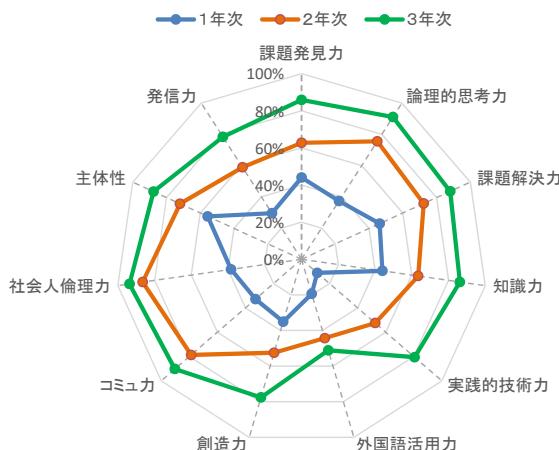
～SPH事業 5年間の取り組みを通した評価結果より～ 高校・専攻科で着実なスキルの定着と飛躍！

本校は「数値制御ロボット技術」を通じた、地域産業を支え、地方創生を創造する技術者の育成をテーマに、5年間のSPH事業取り組みを行ってきました。これまでの生徒自己評価結果や成果について、以下に示します。

本科では数値制御機器での実習や課題研究等、専攻科では数値制御機器実習等を通して、企業での最新のものづくりにおける技術を習得すると同時に、自ら課題を発見し解決するために、どのような機器をどのように活用していくか、主体性をもって、論理的に思考し、他とコミュニケーションを取りながら創造力を高めていく取組をしてきました。そして、学校教育目標に準じたSPH11のスキルを設定し、各年度の前後で生徒、教員が同じ項目に対して4段階評価(S>A>B>C)することで、学校教育目標の定着が図られ、向かうべき目標が明確となり、学校全体の取組とすることができました。

本科生のSPHで身に付けたい資質・能力(SPHスキル)の令和元年度に入学した本科生の1年次、2年次、3年次のAレベル以上の自己評価追跡状況を次の図に示します。

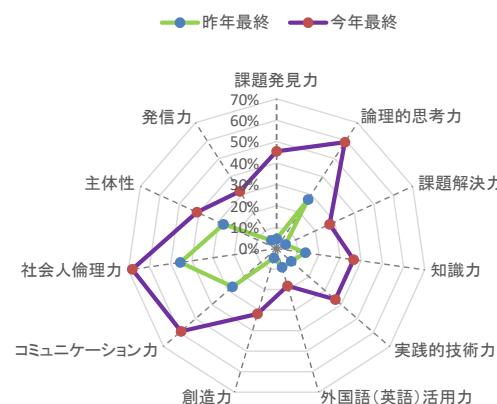
R1本科入学生 3年間追跡 A以上



1年次よりも2年次、2年次よりも3年次と大きく向上しており、高校本科3年間で着実に資質・能力が身に付いていることがうかがえます。特に、論理的思考力、コミュニケーション力、社会人倫理力については、Aレベル以上が90%を超える自己評価となりました。しかし、外国語活用力Aレベル以上が50%前後と低い結果となりました。後で述べます専攻科生も同様で、外国語活用力の評価が伸びないことは、これまで課題でしたが、年次毎に確実に評価が向上しており、このスキルを向上させるには、単年度の取組だけでなく、本科3年間を見通した取組とすることや、本科卒業後も継続した取組が効果的であると考えられます。

次に、令和2年度に入学した専攻科1期生の1年次、2年次のSレベルの自己評価追跡状況を次の図に示します。

専攻科2年生 2年間の変容 Sのみ



専攻科ではSレベルを目標とし、1年次(昨年最終)よりも2年次(今年最終)が向上していますが、全ての資質・能力において大きな向上となりました。5項目以上Sレベルの学生割合は45%であり、着実に資質・能力が身に付いており、2年次の取組である企業と協働した創造研究において、実社会で多くの経験や研究、プレゼンテーションを通じ、自分自身に自信が持てたことも自己評価に大きな相関関係があるものと考えます。

さらに、今年度の1年生の各社3日間(一人当たり4社)の企業実習、2年生の年間を通じた創造研究を通して、企業からの評価結果を下の図に示します。

先進的設計技術者として各企業での活躍が期待される学生割合は94.1%と昨年度の72.9%からも大きく向上しています。専攻科開設2年目で、企業実習や創造研究での協働した取組により各企業における学生個々に対する理解の深まりと創造研究による成果をあげたことが、さらなる期待度の高まりに繋がったものと考えます。

このように、生徒の可能性を引き出すために常により良い効果的な手法を調査し、教員が一丸となり考え、情報共有、実行、評価、改善していく、この一連の過程を試行錯誤しながら研究できたことは、今後の研究体制にも繋がるSPH事業5年間の大きな成果であります。県教育委員会、地域企業および高等教育機関等、多くの方々のご指導、ご協力のもと、研究をすることことができました。

最後になりましたが、本事業に関わりました全ての方々に心より感謝申し上げます。